

2003年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

美術設計論

東京大学出版会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅰ（エネルギー問題の科学技術）	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	後 藤 邦 夫
〔講義概要・学習目標〕 文明社会は莫大な量のエネルギーの消費の上に成り立っている。たとえば、経済活動と市民生活を支えるために日本が輸入する石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は年間数億トンにのぼる。そのほかに、多くの問題を抱えた原子力発電所を多く稼働させている。エネルギーの安定供給はわれわれにとって死活問題である。同時に、化石燃料の燃焼による二酸化炭素や原子力利用ともなう放射性廃棄物などによる環境問題は深刻である。このエネルギー問題の科学技術的側面として、資源の探査と採掘、輸送と貯蔵、転換と精製、配分システム、効率的利用などがあり、いずれも今日の科学技術の重要課題である。しかも、その基底には「エネルギー原理」と「エントロピー原理」という、われわれの自然認識の根幹にかかわるテーマがある。これらを出来るだけ平易に解説し、エネルギー問題の重要性と原理的問題を認識してもらうのがこの授業の目的である。		〔講義計画〕 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) エネルギー問題理解のための基本事項。 (2) 化石燃料資源の探査と採掘。 (3) 化石燃料の精製、加工、転換。 (4) エネルギーの動力利用。 (5) 核エネルギーの利用の現状と展望。 (6) エネルギー科学の基礎的原理。 (7) エネルギー問題と環境問題。 (8) エネルギー問題との社会科学的側面。		
〔成績評価の方法〕 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評 価する。		〔参考文献〕 びただし良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他に 一まごとに授業中に示す。		
〔教科書〕 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅰ（核の時代に生きる）	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	桑 原 雅 子
〔講義概要・学習目標〕 科学技術と社会の問題を考察する際のもっとも典型的な例として「核開発」（原子力）をとりあげる。 原子核分裂反応が発見されたのは、第2次世界大戦前夜であった。核分裂反応によって放出される莫大なエネルギーを、兵器として利用するために、第2次大戦下、科学者を総動員して実施されたのが、アメリカの「マンハッタン・プロジェクト」と呼ばれる原爆製造計画である。この講義では、科学、国家、戦争、科学技術政策、科学者の社会的責任など、さまざまな角度からこのプロジェクトを検討する。 戦後の「核エネルギーの商業利用」つまり原子力発電の諸問題についても、同様の視点から分析する。市民としての判断力を培うには、科学技術の内容について正確な知識をもつことが大切である。		〔講義計画〕 1. 原子核の構造 2. 核分裂反応 3. 原子炉のしくみ 4. マンハッタン・プロジェクト 5. 核エネルギーの利用—原子力発電 6. 高速増殖炉と核燃料サイクル 7. 原子力発電の事故 8. 原子力発電の問題点 9. 核エネルギー利用に未来はあるか		
〔成績評価の方法〕 期末試験による。 授業中に課する小レポートを参考にする。		〔参考文献〕 講義中に指示する。		
〔教科書〕 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅰ)		春学期	2 単位	井 田 和 子
【講義概要・学習目標】 現代文明を特徴づけている科学と技術とはいったいどのような科学・技術をさすのか。科学技術はどこへ行こうとしているのか。科学や技術が産業構造だけでなく、社会や政治さらには人間の生存そのものにも、かかわりあいを持つものになってきた。 身近な地域の公害問題を解決し、環境保全の立場にたった科学技術の発展が急務である。	【講義計画】 1. 水環境：水の特性と働き、水の環境、都市に水を安定供給する方法、河川水の水質汚濁 2. 大気環境：環境大気の構造と組成、環境大気の汚染物質、光化学スモッグ、ヒート・アイランド 3. 土環境：土壌の誕生と機能、都市土壌の特徴、土壌汚染、市街地の土壌汚染の防止 4. 環境資源としての森林の働き 5. 有機塩素系化合物（環境ホルモン）の毒			
【成績評価の方法】 テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	【参考文献】			
【教科書】 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅱ)		秋学期	2 単位	井 田 和 子
【講義概要・学習目標】 歴史の歩みの中で科学や技術はどのような役割を果たしてきたか、人間社会の未来に対してどのようにかかわりあっているのか。 科学技術が経済構造、社会や政治、人間そのものにまで、深いかかわりを持つようになってきた。 生産者ではなく、消費者主導の、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急がれる。	【講義計画】 1. オゾン層の破壊：破壊機構とフロンガス 2. 地球の温暖化：温暖化と化石燃料、温暖化の影響 3. 酸性雨と環境の酸性化：高度工業化と酸性化問題 4. 熱帯林減少：経済問題と気象への影響 5. 人為が原因の砂漠化 6. 海洋の有機塩素化合物汚染 7. 環境問題と科学技術			
【成績評価の方法】 テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	【参考文献】			
【教科書】 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ（「情報」を科学で扱う）	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	後 藤 邦 夫
〔講義概要・学習目標〕 コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは先端的な科学技術が大幅に利用されているが、一体「情報」（あるいは知識）を「科学的に扱う」とはどういうことであろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのとどう違うのだろうか。歴史的な話題を取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。そのモデルは「科学」にとっては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたか。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入ってゆく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業はできるだけ具体的な問題を選んで行うが、その中でクロード・シャノンが1940年代末に提出した基礎的な理論の輪郭を理解してもらえよう。	〔講義計画〕 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 言葉とコミュニケーションを扱う「ブロック図モデル」。 (2) 文字情報の生成と伝達（印刷と出版のシステム）。 (3) 電気通信における「符号化」の役割。 (4) 「ことば」と「波」（電波による情報の大量輸送）。 (5) 「言葉」と「論理」（コンピュータの着想）。 (6) 情報の理論的基礎（シャノンの理論）。 (7) コンピュータにおける情報の働き。			
〔成績評価の方法〕 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	〔参考文献〕 部分的な問題については、おびたしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。			
〔教科書〕 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ
01	木下 昌巳	54371	9 8	05	滝澤 武人	22377	1 0 0	09	藤井 肇	41375	1 0 2
02	小柳 伸顕	34372	9 8	06	竹中 暉雄	13375	1 0 0	10	三浦 俊介	13376	1 0 2
03	佐藤 慶子	12373	9 9	07	生瀬 克己	33374	1 0 1	11	柳父 章	32378	1 0 3
04	杉岡 信行	44374	9 9	08	深澤 徹	53372	1 0 1				

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. 96～01生については、学則上「共通自由科目（共通系）（2単位）」に位置づけられています。しかし、カリキュラム改訂により開講する「論述作文」は、4単位（通期）科目となりました。ただし、皆さんが「論述作文」を履修すれば、履修（登録）単位は2単位となるので注意してください。
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に予備登録（先着順ではない）が必要です。

対 象 者：97～01生（全学部・全学科）

定 員：30名定員

予備登録日：3月22日（土）・24日（月）

予備登録時間：【平日】 9:10～15:00（11:30～12:30 昼休憩）

【土曜】 9:10～13:00（該当土曜日のみ昼休憩なし）

場 所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：3月28日（金）「聖アンデレ館下掲示板」および「授業情報ホームページ」

申 込 方 法：①「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入し提出してください。

- ②希望するクラスを3つ以内で記入してください。ただし、同一クラスを記入することはできません。また、すでにクラス発表されたものや、予備登録で決定したものと重ならないようにクラスを選定してください。

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ
01	北條 仁志	71371	9 1	15	永田 淳次	61371	9 3	29	朴 修賢	31375	9 5
02	"	72371	9 1	16	"	61372	9 3	30	"	32375	9 5
03	岩田 賢造	41373	9 1	17	"	62371	9 3	31	"	32376	9 5
04	"	41374	9 2	18	"	62372	9 3	32	巖 圭介	32377	9 5
05	"	42372	9 1	19	初瀬 慎一	11373	9 4	33	水口 薫	21374	9 6
06	"	42373	9 2	20	"	11374	9 4	34	"	21375	9 6
07	田中 裕顕	13374	9 2	21	"	31372	9 4	35	"	22375	9 6
08	"	31371	9 2	22	"	31373	9 4	36	"	22376	9 6
09	"	14374	9 2	23	"	32373	9 4	37	"	23372	9 6
10	"	32372	9 2	24	"	32374	9 4	38	"	24373	9 6
11	田村 昶三	21372	9 3	25	"	33372	9 4	39	"	43373	9 6
12	"	21373	9 3	26	"	33373	9 4	40	"	44373	9 6
13	"	22373	9 3	27	"	12372	9 4				
14	"	22374	9 3	28	朴 修賢	31374	9 5				

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. この科目は、学則上「共通自由科目（共通系）（2単位）」、社会福祉学科生は「社会福祉学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順ではない）**が必要です。

対象者：97～01生（全学部・全学科）

定員：35名

予備登録日：3月22日（土）・24日（月）

予備登録時間：【平日】9:10～15:00（11:30～12:30昼休憩）

【土曜】9:10～13:00（該当土曜日のみ昼休憩なし）

場所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：3月28日（金）「聖アンデレ館下掲示板」および「授業情報ホームページ」

申込方法：①「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。

②希望するクラスを3つ以内で記入してください。

ただし、同一クラスを記入することはできません。また、既に予備登録を済ませた科目やクラス発表のあった科目と重ならないよう注意してください。

<注意>経営学部生については、「ビジネス情報利用（旧プログラミング論B）」と「コンピュータ利用Ⅰ」の、いずれか一方しか履修・修得することができないので注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅰ）		春学期	2単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>泉州の今昔Ⅰは主に「古代中世」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その歴史と文化を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学期末にフィールドワークのレポートを課し、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅱ）		秋学期	2単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>泉州の今昔Ⅱは主に「近世近代」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その産業と社会を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学期末にフィールドワークレポートを課し、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																				
総合講座 I ITの活用の実際		春学期	2 単位	藤 間 真																				
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>新聞・雑誌にURL(いわゆるホームページアドレス)が掲載されない日が無くなったことからもわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。</p> <p>本講義では、各業種でITを活用している現場の管理職の皆さんにおいでいただき、最先端の企業の活用状況を話していただく。</p> <p>また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。</p> <p>2回目以降に関しては講義計画執筆時(2002年12月)現在交渉中である。参考の為に2002年度の実績を下表に示す(順不同)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鐘淵化学工業</td> <td>「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」</td> </tr> <tr> <td>ドコモAOL</td> <td>「インターネットビジネスの展望」</td> </tr> <tr> <td>ダイエー</td> <td>「流通業の世界のトレンド」</td> </tr> <tr> <td>武田薬品工業</td> <td>「情報システムの開発の方向」</td> </tr> <tr> <td>日本電気</td> <td>「公共事業の情報システム」</td> </tr> <tr> <td>新日本製鐵</td> <td>「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」</td> </tr> <tr> <td>松下電器</td> <td>「全社的情報セキュリティ管理」</td> </tr> <tr> <td>ダイキン</td> <td>「企業経営とIT」</td> </tr> <tr> <td>ダン</td> <td>「靴下屋の情報戦略」</td> </tr> </tbody> </table> <p>最終回にまとめを行う。</p>		題目	鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」	ドコモAOL	「インターネットビジネスの展望」	ダイエー	「流通業の世界のトレンド」	武田薬品工業	「情報システムの開発の方向」	日本電気	「公共事業の情報システム」	新日本製鐵	「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」	松下電器	「全社的情報セキュリティ管理」	ダイキン	「企業経営とIT」	ダン	「靴下屋の情報戦略」		
	題目																							
鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」																							
ドコモAOL	「インターネットビジネスの展望」																							
ダイエー	「流通業の世界のトレンド」																							
武田薬品工業	「情報システムの開発の方向」																							
日本電気	「公共事業の情報システム」																							
新日本製鐵	「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」																							
松下電器	「全社的情報セキュリティ管理」																							
ダイキン	「企業経営とIT」																							
ダン	「靴下屋の情報戦略」																							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>																						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (スポーツと人物・人生 (1))		春学期	2 単位	松 浦 道 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スポーツが大きな社会現象となって久しく、益ます多様化し発展しています。そこにはスポーツで成長し、スポーツにかけることによって夢を追い、生き、スポーツや社会に影響を与えた人びとがいます。スポーツは趣味や健康、教育や政治、職業や経済あるいは思想や文化の分野に関連してきました。そこでスポーツと人生、人物のテーマで、担当者の関心ある人物を取り上げて語ってまいります。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 回目の講義で、ガイダンスをします。各担当者の紹介とそれぞれのテーマを知らせます。1 2～1 3回で1 人 I～2 回担当予定です。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中にそれぞれ担当者が知らせます。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅱ（地域の歴史と文化財保存）		通 期	4 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>歴史を学ぶことは楽しい。しかし、「歴史は暗記物」とか、「歴史は藤原氏や信長・秀吉のような偉人がつくるもの」とか、「文化財」というのは立派なお寺や神社にだけあるもの」といった誤解は根強い。</p> <p>そうではない。歴史は、私たちの日々の生活や身近なところで起こっている出来事の積み重ねのなかからつくられていくのだ。そうした身近な世界の歴史を、さまざまな材料を使って調べ、そこから社会の成り立ちや私たちの課題を見極めていくことが「歴史を学ぶ」ということなのだ。そして、そのようにして歴史を学ぶことのできる材料が、史料であり文化財なのだ。</p> <p>この講義では、①私たちが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、こうした史料＝文化財がどのような形であるのか、②地域に残されたさまざまな史料＝文化財から、どのような地域の歴史が明らかになるのか、③地域の文化財を保存することには、どんな意味があるのか、について考えたい。</p> <p>具体的には、各分野で地域の歴史研究や史料の保存に携わっている専門家を招いてリレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>（前期）文化財保存の最前線</p> <p>考古学における資料／埋蔵文化財の調査／埋蔵文化財の保存と破壊 中世荘園の世界／絵図から読みとる荘園世界／荘園景観の保存 阪神淡路大震災と被災史料救出・保全活動／震災資料の収集と保存 ／公害問題の歴史と史料保存 ほか</p> <p>（後期）和泉市の地域史と文化財</p> <p>池上・曾根遺跡／古墳の造営／古代窯業地域・陶邑（すえむら） 自治体史の編さんと史料保存／地域の歴史的総合調査研究 古代・中世の松尾寺地域／古文書からわかる江戸時代の村 和泉市域の近代史／地域に残る戦争遺跡 ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで各講師が随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各講師がプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋近代史		通 期	4 単位	山 田 義 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代ヨーロッパとは、ヨーロッパの拡大の時代でもあった。しかしこの時代は、必ずしも明るい時代だったとはいえないし、この時代全体を通じてヨーロッパ諸国による世界支配、つまり非ヨーロッパ地域の隷属化が完成するのである。</p> <p>この講義では、いくつかのテーマを設定して近代の暗い面と明るい面をとりあげることにするが、学生諸君には、歴史のなかで「近代」のもつ意味を改めて考えてもらいたい</p> <p>なお、講義のさいにミニ・レポートを課することがある。質問・疑問などを書いてもらい、それにもとづいてさらに講義を進めることにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>主なテーマ</p> <p>①時代区分としての「近代」：近代とはどのような時代か。いくつかの時代区分を紹介したうえで、近代の特質を考える。</p> <p>②ペスト：中世後期から19世紀まで、ヨーロッパ社会は断続的にペストに悩まされた。このペストが社会に与えた影響について考える。</p> <p>③魔女：魔女とは何か。魔女はなぜヨーロッパ特有の現象だったのか。</p> <p>④宗教改革：時代背景を整理したうえで、ルターとカルヴァンの職業観の比較をおこなう。</p> <p>⑤大航海の時代：ヨーロッパの拡大の過程と、それがもたらした諸問題について論じる。</p> <p>⑥奴隷貿易：大西洋を中心とした奴隷貿易とその意味について論じる。</p> <p>⑦産業革命：研究史を紹介したうえで、この革命がもたらした功罪を考える。</p> <p>⑧19世紀ナショナリズムの諸問題：その概念、発現形態、具体例（ドイツ統一）などについて論じる。</p> <p>⑨帝国主義の時代：19世紀後半のヨーロッパ列強の対立・抗争について論じ、第一次世界大戦への道を探る。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と、レポートもしくは試験によって評価する</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし。講義のさいに、プリントを配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語研究特講 社会言語学の現在		通 期	4 単位	村 上 敬 一
【講義概要・学習目標】 日本の社会言語学が、これまで日本語教育とどのようにかかわり、また今後どのように応用すべきかについて考へ、科学的、客観的、統計的手法による収集したデータに基づいた、社会言語学の最新の研究成果をみていく。そのなかで、日本語教育をはじめとして第1、第2言語習得、対照言語学、方言学などの関連分野についても概観してみたい。		【講義計画】 以下の項目について、教目おりにわけて取りあがります。 ・社会言語学概観 ・属性とことば（集団語、ことばの世代差、ことばの男女差） ・言語接触（共通語と方言の接触、日本語と外国語の接触） ・言語変化（日本語の均一化、地域語と都市方言） ・ことばの習得（第1言語の習得、第2言語の習得、中間言語） ・日本人の言語行動（言語運用から見た敬語、2-1選択と言語使用） ・日本人の言語生活（テレビの方言、共通語、接客敬語の地域差）		
【成績評価の方法】 期末試験 授業後に課外小レポート、出席を総合して評価する。		【参考文献】 社会言語学（ろうふう） 社会言語学図集（秋山書店） 新・方言学を学ぶ人のために（世界思想社）		
【教科書】 丸山エリカ／中井裕一／宮治弘明（編） 応用社会言語学を学ぶ人のために （世界思想社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		秋学期	2 単位	徳 永 正 直
【講義概要・学習目標】 無力な赤ん坊が「教育」と「学習」を通じて発達し、それぞれの人間性を実現していく過程を、「社会化」「文化化」「精神化」「人格化」の過程として捉え、とりわけ「社会化」「文化化」の過程に関連して、言語の人間形成論的意義をボルノー（O.F.Bollnow）やブーバー（M.Buber）を手がかりとして明らかにする。また、「精神化」「人格化」に関連して道徳性の発達や本来の自己としての実存の問題を、コールバーグ（L.Kohlberg）やフランクル（V.E.Frankl）の考え方を参考にして検討する。 教育哲学のなかで、「教育」という事象を根源的、全体的に捉えることの重要性に気づくことができれば幸いである。		【講義計画】 ①教育事象を哲学するということ ②「教育されねばならない動物」(animal educandum)としての人間（シェラー・ゲーレン・ポルトマンによる「教育必要性・可能性」の基礎づけ） ③ボルノーにおける言語の人間学的考察 ④ブーバーの対話的原理—『我と汝』の思想 ⑤コールバーグの道徳性発達の理論と普遍妥当的道徳律 ⑥フランクルの実存分析 ⑦自我同一性と十牛図 ⑧フリットナーにおける「人間と教育の四つの見方」 それぞれのテーマについて約二時間解説し、人間形成論的意義を一緒に考えてみたいと思う。		
【成績評価の方法】 定期試験によって評価するが、履修者が少ない場合には平常点を考慮し、場合によってはレポート（2000字以上）で評価する。		【参考文献】 講義中にそのつど指示する。		
【教科書】 教科書は用いず、そのつどレジュメを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育行政学		秋学期	2 単位	金子 勉
【講義概要・学習目標】 教育行政は「包括的な権力団体としての国家または地方公共団体が、教育政策を定立し、公的承認を受けながら、それを現実化する作用・行為」と定義される。現実の社会において、公教育の実施を保障する教育行政の役割と責任は重大である。 教育行政が行政の一分野であることはいうまでもなく、それゆえ教育行政には規制作用が伴う。しかし、教育行政の特徴は、教育条件の整備という助成作用が、その主要部分を占めるところにある。 講義では、まず、教育行政の範囲を明らかにしたうえで、教育行政の基本原理にかかわる伝統的な学説と現状の比較、さらに近年の動向について講述する。次に、具体的な教育政策をとりあげて、教育行政の個別領域における理論と実際の諸相を、具体的に解説する。以上の学習により、今後の教育行政に期待される役割について、理解を深めることとしたい。	【講義計画】 1 教育行政の概念(1) 2 教育行政の概念(2) 3 国の教育行政 4 地方の教育行政 5 教育行政の基本原理(1) 6 教育行政の基本原理(2) 7 教育行政の基本原理(3) 8 教育行政の基本原理(4) 9 教育委員会の構造 10 教育内容に関する行政 11 教育の外的条件に関する行政 12 教育行政の新たな展開 13 外国の教育行政			
【成績評価の方法】 レポートにより評価する。	【参考文献】 平原春好『教育行政学』東京大学出版会 黒崎勲『教育行政学』岩波書店 文部科学省『文部科学白書』財務省印刷局 解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		春学期	2 単位	金子 勉
【講義概要・学習目標】 元来、教育は私事であり、国家の関与を前提とするものではなかった。しかし、近代公教育制度の成立以後は、学校教育の重要性が明白となり、国家的な関心が高まった。 そのような国家と教育の関係は、教育法規によって規律される。それは、憲法や法律のほか、各種の命令から成り立ち、きわめて複雑な体系を形成している。そこで、この講義では、教育法規のなかから、特に重要なものを取り上げ、その内容と解釈について、講述する。 なお、最近では、社会の急激な変化に対応するために、教育法規が頻りに改正されたり、あるいは今後の改正が構想されている。それらは重要な論点を含んでいるので、「今、教育に何が起きているのか」を問いながら、生きた教育法規の理解を目標として、授業を行う。	【講義計画】 1 教育法規の基本事項 2 憲法の教育条項 3 教育基本法 4 学校制度に関する法規 5 教育条件に関する法規 6 教育内容に関する法規(1) 7 教育内容に関する法規(2) 8 教育行政組織に関する法規 9 私立学校に関する法律 10 教育公務員に関する法律 11 教育職員の免許に関する法律			
【成績評価の方法】 レポートにより評価する。	【参考文献】 解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂 菱村幸彦『やさしい教育法の読み方』教育開発研究所 鈴木勲『逐条学校教育法』学陽書房 木田宏『逐条解説地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第一法規			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育・心理学特講（不登校といじめ問題）		春学期	2 単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標] 青年期の子どもの心のゆれについて、「不登校」と「いじめ」問題等を手がかりに考えたい。保護者側の問題として浮上している「児童虐待」を取り上げると共に、子どもの問題に対する治療実践や教育実践についても見ていきたい。毎回、ビデオ資料を手がかりにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 14歳の心の風景 2. 子ども達のSOS 3. 教師、今何ができるか 4. 中学生日記 激論ドラマ「いじめ」 5. 不登校 6. 絵の中のわたし 7. ひきこもり 8. 児童虐待 9. 不登校児から学ぶこと 10. 非行診療室 11. 北星学園余市高校 12. 梅子先生 			
<p>[成績評価の方法] 授業毎の小レポートならびに期末考査の結果を総合して行う。</p>	<p>[参考文献]</p> 授業内で、適宜紹介する。			
<p>[教科書] 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論		春学期	2 単位	志保田 務
<p>[講義概要・学習目標] 図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をしたらよいかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。ここでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界の将来等について検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館とはなにか 2. 図書館の果たす役割 3. 情報の伝達と図書館 4. 社会、生涯学習と図書館 5. 図書館の構成要素 6. 図書館の種類（館種） 7. 公共図書館：理念 8. 公共図書館の歴史と現代 9. 公共図書館の利用者 10. 図書館の自由 11. 図書館経営 12. 図書館と情報化 13. 図書館の将来。テスト 			
<p>[成績評価の方法] テスト80% レポート 20%</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館資料論		秋学期	2単位	志保田 務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について抗議する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料論 2. 図書館資料の種類 3. 資料の生産と流通 4. 資料の選択 5. 資料選択論 6. 図書館の自由 7. 電子資料、電子情報 8. ネットワーク 9. インターネット 10. 著作権 11. 公共貸与権 12. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト80% 課題 20%</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>志保田務・山本順一監修著『資料・メディア総論－図書館資料論・専門資料論・資料特論の統合化』（学芸図書） 2001</p> <p>①. 生協にて一括購入し販売する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書及び図書館の歴史		秋学期	2単位	上田 格
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人類の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心位置を占めている。その図書の歴史の変遷をたどり、最新の電子資料にいたる歩みを概説する。 次に、図書をはじめとする各種のメディアの保存・提供の場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの占有物であった時代から、広く一般民衆に開放されるまでの、思想的・制度的変遷の経過をわかりやすく講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の誕生と図書の歴史 2. 印刷の歴史 3. 非図書の出現 4. 古代の図書館 5. 中世の図書館 6. 近世の図書館 7. 近代図書館の先駆け 8. 近代公共図書館の誕生 9. 日本の近代図書館の歩み 10. 日本の近代図書館の歩み 続 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験（筆記）を行って評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『図書館 その本質・歴史・思潮』増補版 岡田 温著 丸善 『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂 『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会（図書館員選書 31）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『図書館の話』森 耕一著 至誠堂（至誠堂選書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童サービス論		春学期	2 単位	清 水 昭 治
【講義概要・学習目標】 この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に、公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考へられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生までの幅広い本が準備されています。まず、この現実を学びます。少子化時代に入り、絶対数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を土さえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育がとられる中で、図書館の重要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。	【講義計画】 講義と共に、具体的に、実際に、多量に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。 又、ビデオ・スライドなどを利用してながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。			
【成績評価の方法】 レポート、又は、学年末試験に代えて、出席状況や、平常成績とを総合評価します。	【参考文献】 参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。 具体的には、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できますことと思います。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
専門資料論		春学期	2 単位	宮 本 孝 二
【講義概要・学習目標】 この講義では、人文科学、社会科学、自然科学の各専門分野に属する専門主題別に、専門資料の特性や、その分野と主題の知識構造について説明し、さらに、それら専門資料に関する書誌や索引など、専門資料を探索するのに不可欠なツール（道具）について、それらの特性と活用法を明らかにする。なお、高度情報化の進展に伴い、情報量は爆発的に増加し、情報アクセスのツールであるコンピュータや通信技術も急速に発展しているため、オンラインやCD-ROMによる専門情報アクセスについても解説したい。 図書館専門職員が十分にその役割を果たすためには、諸科学の専門諸分野、専門諸主題の概要と、それらに関する専門資料の特性を正確に理解し、専門資料を適切かつ迅速に検索し情報を提供する方法を習得しておくことは不可欠であることを自覚し、真剣に受講していただきたい。	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1 専門資料の概要と情報アクセス 専門資料と図書館、専門資料の意義と内外での現況、専門資料の書誌・索引類と専門資料への情報アクセス 2 人文科学資料の特性と情報アクセス 人文科学資料の特性、人文科学資料の書誌・参考図書、人文科学資料への情報アクセス 3 社会科学資料の特性と情報アクセス 社会科学資料の特性、社会科学資料の書誌・参考図書、社会科学資料への情報アクセス 4 科学技術資料の特性と情報アクセス 科学技術資料の特性、科学技術資料の書誌・参考図書、科学技術資料への情報アクセス 以上の内容を、13回ないし14回で、テキストをもとに講義する。			
【成績評価の方法】 春学期期末試験の結果によって評価する。ただし、毎回出席を義務付け、出席率が低い受講生には受験を認めない。なお、欠席者には欠席日の講義内容（テキスト該当部分）についてのレポートが課せられる。	【参考文献】 その都度指示する。			
【教科書】 中森強編著『専門資料論』（新現代図書館学講座9） 1999年、東京書籍				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生涯学習概論	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	伊藤正純
[講義概要・学習目標] <p>日本でも生涯学習は当たり前の言葉となってきたが、しかし、政府および地方自治体が普及をはかっている割には、人々に浸透しているようには思えない。生涯教育・生涯学習は1960年代、70年代にユネスコ、OECDなどの国際機関が提唱したものである。それは急速な技術革新と高齢化の進展に対応して、勤労成人を含めてすべての人々に学習機会を保障する必要があるからである。生涯学習普及にとって最大のネックは時間である。その意味でも、ILOが勧告した有給教育休暇制度を導入しないうるだろう。本講義では、生涯学習大國・スウェーデンと比較しながら、日本の生涯学習の現状を紹介し、考えたい。</p>	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習とは何か ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論 ILOの有給教育休暇勧告 2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験 労働市場プログラム、リカレント教育、コミュニティ成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル 3. 日本の「生涯学習社会」とその現状 (1) 随教審答申、生涯学習振興法 (2) 地方自治体の取り組み(市民大学など) (3) 大学改革、高校改革、生涯学習機関としての学校 コンソーシアムなど 			
[成績評価の方法] <p>司書および学芸員の資格取得科目でもあるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価は8割をこの感想文で、2割を期末の試験で行う。なお、20分を超えた遅刻は認めない。</p>	[参考文献] <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒沢雅昭他編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部 3. 倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社 4. 森岡孝二他編『21世紀の経済社会を構想する』桜井書店 			
[教科書] <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館サービス論		春学期	2単位	西田文男
[講義概要・学習目標] <p>利用者とは直接係わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p>	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館サービスの意義と種類(貸出、読書案内、情報サービス、利用者援助、教育・文化活動など) 2. 利用者理解と利用対象別サービス(多分化サービスを含む) 3. 図書館サービスと著作権 4. 図書館サービスとボランティア 5. 図書館サービスの協力(他の図書館、関連機関との連携・協力等) 			
[成績評価の方法] <p>定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。</p>	[参考文献] <p>その都度指示する。</p>			
[教科書] <p>塩見 昇「図書館サービス論」教育史料出版会(新編 図書館学教育資料集成)</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
資料特論		秋学期	2 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標] 行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。</p>	<p>[講義計画] ・はじめに ・行政資料について ・情報公開制度について ・公文書館について ・視聴覚資料について ・CD-ROMの利用 ・郷土資料について ・まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 講師それぞれの評価(テストまたはレポート)を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
図書館特論		秋学期	2 単位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標] － 図書館の諸問題 － 図書館に関する諸現象をとらえ考察する。現代社会のなかで生じる図書館に関する問題点を追うので、都度新鮮な問題を扱うが、新年度前において立てた企画を講義計画欄に記しておく。</p>	<p>[講義計画] 1. 図書館現象について 2. 教育と図書館 3. 市民と図書館 4. 図書館学論 5. 図書館の施設と設備 6. 図書館の機械化 7. 図書館とネットワーク 8. 図書館とインターネット利用 9. 電子図書館 10. IT化、ビジネス図書館 11. 図書館と著作権 12. 公共貸与権 13. 図書館評価：パフォーマンス指標 14. まとめ (テスト)</p>			
<p>[成績評価の方法] テスト 70% 課題 20% 出席 10%</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 後で指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		春学期	2 単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標] 学芸員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。この授業で、博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の目的と機能 2. 博物館の歴史 3. 博物館の現状 4. 博物館倫理 5. 博物館関係法規 6. 生涯学習と博物館 			
<p>[成績評価の方法] 平常点、レポート、およびテストを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 広瀬陸人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅰ（旧博物館学各論）		春学期	2 単位	水 口 薫
<p>[講義概要・学習目標] 近年、博物館及び博物館相当施設が増え、社会におけるその機能、役割が注目されてきている。特に生涯学習、学校教育、研究活動において、その領域は拡大し、その必要性和相まって博物館への関心は高くなっている。新しい博物館像が模索される中でも、学芸員は博物館の基本機能である資料収集、保存、研究、教育・普及活動の知識と活用する能力が求められている。 本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」を内容とする。 博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。 適時ビデオ資料を使用する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>「博物館資料論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館とは何か 博物館資料の概念 2. 博物館資料の種類と特質 3. 博物館資料の収集・調査と整理 4. 博物館活動と資料情報 5. 博物館資料の取り扱い方と製作 6. 博物館資料の保存と劣化対策 7. 虫菌害と防除対策 8. 博物館資料の利用 9. 展示の実際1 展示と環境・条件 10. 展示の実際2 展示方法と照明 11. 展覧会の企画と開催 12. 博物館の危機管理と地震対策 13. 資料論からみた博物館 			
<p>[成績評価の方法] 出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『博物館学教程』大堀哲編（東京堂出版） 『博物館学概説』網干善教編（関西大出版部）</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>			
<p>[教科書] 「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編） 適時、プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅱ (旧博物館学各論)		秋学期	2 単位	水 口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の行財政 2. 博物館経営の理念と方法 (ミュージアム・マネージメント) 3. 博物館の組織と職員及び施設・設備 4. 博物館と利用者、地域社会との関係 5. 博物館における教育普及活動の意義と方法 6. 博物館における市民参加とボランティア 博物館友の会・後援会 7. 博物館の出版活動 8. 博物館の広報活動 <p>「博物館情報論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 博物館における情報の意義 10. 博物館における情報提供と活用方法 11. 博物館における情報機器とその利用 12. 情報発信機関としての博物館 13. 博物館の教育・普及活動における資料と情報 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト (適時)、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>「ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践」 (東京堂出版)</p> <p>大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊 (編)</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」 (雄山閣) 加藤有次、椎名仙卓 (編)</p> <p>適時、プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業技術論		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>技術は人間生活の発展に不可欠なものである。技術の進歩は社会生活を豊かにし、生活を向上させる。技術の進歩は社会生活を豊かにし、生活を向上させる。技術の進歩は社会生活を豊かにし、生活を向上させる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>第1章 技術の定義と歴史</p> <p>第2章 技術の発展と社会</p> <p>第3章 技術の進歩と産業</p> <p>第4章 技術の革新と未来</p> <p>第5章 技術の倫理と責任</p> <p>第6章 技術の国際化とグローバル化</p> <p>第7章 技術の環境と持続可能性</p> <p>第8章 技術の教育と人材育成</p> <p>第9章 技術の政策と規制</p> <p>第10章 技術の未来と展望</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (インターンシップ)		集中コース	2 単位	義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標] インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験などをするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。</p> <p>なお当科目については、4月に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修手続きができないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>プログラムの概要</p> <p>(1) 事前研修 ① プログラムのガイダンス ② 研修企業・団体などの事前学習 ③ ビジスマナーの指導 ④ 研修要領の説明と報告書の作成指導</p> <p>(2) 研修期間 夏期休暇中(60時間以上、2週間の予定)</p> <p>(3) 事後研修 研修結果の報告</p>			
<p>[成績評価の方法] 事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法概論		春学期集中	4 単位	佐藤 啓子
<p>[講義概要・学習目標] 民法、特に財産法の基本知識と原理を学ぶ。 基礎的な知識を中心とするので、単調にはなるかもしれないが、民法全般を知ることでも「使える」体系が頭の中のできるレベルを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書の順番を変えつつ説明する。 おおよそ民法総則、債権各論、物権法(担保物権法以外)、債権総論、担保物権法の順番となる。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席とテスト。</p>	<p>[参考文献] 特になし。</p>			
<p>[教科書] 椿寿夫・有斐閣『民法(財産法)二五講』 ポケット六法かデイリー六法などの六法</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法概論		春学期集中	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容については別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されているので、本講義では商法全体の基本的なしくみを解説する。ただ、時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を取り上げることとなる。商法は法律学のなかでも特に技術的な要素が大きいため、受講者には商法学を学ぼうとする強い意欲が要求される。 毎授業時『六法』必携。なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。	[講義計画] I 商法の概観 II 会社法 (1)会社の性質・種類 (2)株式会社 ①設立 ②法人成り ③株主 ④株式の譲渡 ⑤株主総会 ⑥総会決議 ⑦取締役 ⑧取締役会・代表取締役 ⑨取締役の責任 ⑩監査役 ⑪新株発行と社債 ⑫計算 ⑬基礎的変更 III 手形法・小切手法 (1)約束手形 ①振出 ②振出時のトラブル ③裏書 ④善意者保護 ⑤支払・不渡等 (2)為替手形 (3)小切手 ①振出等 ②繰引小切手 IV 商法総則・商行為法 ①総則 ②商行為法			
[成績評価の方法] 学期末テストを実施するが、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である(できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する)。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成15年版』(有斐閣)				

<編入生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門(編入生用)		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
[講義概要・学習目標] 日本の経済成長と景気循環について講義し、1980~90年代のバブル経済の展開とその崩壊、その後の長期不況の様相と原因について学習する。 またこの時期の日本の経済政策、とくに金融財政政策と企業経営についても講義を行う。 これらの学習を通じて日本経済が内包する問題を解明し、経済再生の方策を探ることを学習目標とする。	[講義計画] (前期) テキストの順序に従い、日本経済分析の指標、日本の経済成長力と景気変動、バブル経済の分析と90年代の不況とデフレ、政府の財政・金融政策、世界経済と為替レート、不景気改革とは何か、不良債権問題と金融・証券危機について学習する。 (後期) 日本の財政問題、財政投資、年金制度の問題点、日本の企業経営システム、コーポレートガバナンス、時価会計・減損会計問題、雇用の流動化、新技術と環境問題、日本経済の将来展望等について学習を進める。			
[成績評価の方法] 出席状況、提出レポートの内容、期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。	[参考文献] 相沢幸徳著『現代資本主義の構造改革』ミネルヴァ 7,500+税 金子 勝著『長期停滞』ちくま新書 7680+税 その他適時指示する。			
[教科書] 北坂真一著『Q&A 55 入門 日本経済』 ダイアモンド社(2002年8月刊) 1,400+税				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	01	通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
[講義概要・学習目標] 会社の種類は、商法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、株式会社および有限会社である。そのうち、日本経済において、最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する商法規制を中心に講義を行いたい。特に、近年、会社法の大改正が行われ、改正された部分につき、きめの細かい講義を行う。	[講義計画] 前期においては、会社法総論、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源と沿革、株式会社の設立および株式と株主について、講義を行う。 後期においては、株主総会、取締役執行役、監査役、計算、新株発行、社債、企業の結合と再編、定款の変更・資本の減少・組織変更、会社の消滅と倒産処理および外国会社について、講義を行う。			
[成績評価の方法] 試験の成績で判定する。	[参考文献] 無し。			
[教科書] 〇 古瀬村邦夫・藤田勝利・北村雅史 編「プライマリー会社法」(法律文化社発行) 〇 「ポケット六法(平成15年版)」(有斐閣発行)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	02	秋学期集中	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法のうち会社法について講述する。『商法概論』でも会社法の基本的なしくみを説明しているが、本講義ではより詳細に会社法の諸問題を解明していきたい。最高裁判例も特に重要なものは紹介検討するつもりである。それだけに多少とも難解な内容になることは避けられないが、学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。 毎授業時に『六法』を携帯すること。なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項については、最初の授業時に述べる。	[講義計画] I 会社法総論 (1)会社の性質 (2)会社の種類 (3)法人成り II 株式会社法 (1)設立(設立手続、定款、仮装払込等) (2)株式(株主の権利義務、株式譲渡、自己株式の取得) (3)株主総会(総会の権限等、総会決議、決議の瑕疵) (4)取締役・取締役会(取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任) (5)監査役・会計監査人 (6)資金調達(新株発行、社債) (7)計算(計算書類、資本・法定準備金、利益配当) (8)基礎的変更(合併・営業譲渡、その他の変更) III その他の会社法 (1)有限会社法 (2)合名会社法 (3)合資会社法			
[成績評価の方法] 学期末テストを実施するが、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である(できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する)。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成16年版』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法		通期	4単位	松宮 広和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>我が国における経済法の基本法である「独占禁止法」(独禁法)の構造、及びその現実の社会における機能についての一般的な基礎知識を獲得することを、年間を通じての目標とします。また、独禁法と密接に係る法分野である知的財産法及び国際経済法についても、同じく基礎知識の獲得を目的に解説を行います。より、具体的には、経済学を専攻する方々が、将来社会における経済活動に従事する際に最低限必要となるであろう経済法に関する知識を習得することを旨として講義を進めます。経済法と現実の社会との接点を見極める視点を養成するために、現実の社会における具体的な問題提起の素材として、独禁法に関連する新聞記事等の具体的事実も適宜取り上げます。講義は平易であることを目指し、法律科目の既登録者はもちろん、法学の初学者の参加も歓迎しますが、その様な場合には、私法科目の登録及び日常の予習・復習等によって、講義の理解を深める様に心がけて下さい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期></p> <p>春学期は、我が国における経済法制度において中心的な役割を果たしている独禁法についての解説を行います。より、具体的には、市民革命以後に成立した私法の基本原則が修正される過程において、経済法という法分野が誕生してきた意義をその歴史的背景から明らかなものとした上で、実体法としての独禁法についての解説を行います。</p> <p><秋学期></p> <p>秋学期の前半では、春学期に引き続いて、独禁法についての解説を行います。その後、独禁法と密接に係る法分野である知的財産法及び国際経済法についても、基礎知識の獲得を目的に解説を行います。なお、年度末には、1年間の復習を行います。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績が中心です。出席を採る場合、小テストを実施する場合もありますが、期末試験が評価の中心であることには変わりません。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>J. H. シェネフィールド・I. M. ステルツァー(著)、金子晃ほか(訳)『アメリカ独占禁止法-実務と理論』(三省堂 1999年)。 小野昌延『知的財産法入門-特許・商標・著作権の常識-(第3版)』(有斐閣 1998年)。</p> <p>その他、必要に応じて適宜指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>根岸哲『経済法』(放送大学教育振興会 2000年)。 六法。独禁法を含むものを各自で準備して下さい。 可能ならば、特許法、著作権法及び商標法までが含まれているものが理想的です。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法		通期	4単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。 基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらおう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 行政法の基礎的問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 取消訴訟の一つの判決 2 行政と行政法 3 法律による行政法の原理 4 行政組織と行政立法 5 情報公開制度 6 行政救済法の概略 7 行政行為の概念 <p>後期 行政行為と行政過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 行政行為の種別 9 行政手続 10 行政行為の瑕疵 11 職権取消と撤回 12 行政計画 13 行政強制 14 行政調査 15 行政指導 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席、及び授業時間内に行うテスト等も評価に加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第4版)』有斐閣 塩野宏『行政法Ⅰ』有斐閣 原田尚彦『行政法要論』学陽書房 芝池義一編『判例行政法入門(第3判)』有斐閣</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小高剛『行政法総論(二版)』2001年 ぎょうせい 『ポケット六法 平成15年版』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 (債権回収手続法)		秋学期集中	4 単位	本 間 法 之
[講義概要・学習目標] バブル経済崩壊後の長らく不況の中で、倒産事件数は増大し続けています。自分の会社の取引先が破綻したとき、どのようにして債権の回収をはかればよいのか、また、不幸にして自分が多額の債務を抱えて経済的破綻に陥ってしまったとき、どのようにすればよいのか。本講義では、債権回収の最終手段たる倒産処理手続、とりわけ破産手続を中心に、法的債権回収の手続について概説します。	[講義計画] ① 倒産法制と私的整理 ② 個別執行（民事執行）と包括執行（倒産処理） ③ 倒産処理手続の開始 ④ 倒産処理手続における債権の処遇 ⑤ 倒産処理と担保権 ⑥ 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係 ⑦ 否認権 ⑧ 倒産処理手続の終了 ⑨ 消費者の破産・免責・個人債務者の再生手続 ⑩ 民事再生と会社更生 ⑪ 企業再生と M&A ⑫ 国際倒産			
[成績評価の方法] ①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行います。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] 加藤哲夫著「破産法（第三版）」（弘文堂）¥3100 なお、講義に際しては、平成 15 年版の「六法」を常に携帯して下さい。 「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 (民事訴訟法)		春学期集中	4 単位	本 間 法 之
[講義概要・学習目標] 民事訴訟法の判決手続について概説します。例えば、君が本当にお金を貸したのに、相手が「あれは貰ったので、借りたのではない」と居直ったらどうなるか。民法の世界では当然返してもらえないはずのお金、相手からすれば返さなければならぬはずのお金も、訴訟法の世界でその権利や義務が認められなければ、結局は返ってこなくなってしまう場合があるのです。本格的な訴訟社会の到来を迎えて、明確な訴訟戦略をもたない企業・団体は続々と崩壊し、自分の権利を適切な手続の下で実現できない個人は、ますます社会の片隅に追いやられていくかのように見えます。権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって、初めて権利の何たるかが理解できるといっても過言ではありません。	[講義計画] ① 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物） ② 訴訟の開始（訴え提起とその効果） ③ 訴訟要件（訴えの利益） ④ 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人） ⑤ 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義） ⑥ 訴訟の進行（職権進行主義） ⑦ 訴訟手続の中断・中止 ⑧ 争点整理手続 ⑨ 口頭弁論と弁論主義 ⑩ 口頭弁論における当事者の態度 ⑪ 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任） ⑫ 終局判決による訴訟の終了 ⑬ 判決の効力（既判力・執行力・形成力） ⑭ 判決効の拡張 ⑮ 当事者による訴訟の終了 ⑯ 複雑な訴訟 ⑰ 訴訟承継 ⑱ 上訴・再審 ⑲ 国際民事訴訟—国際私法との交錯 ⑳ 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟			
[成績評価の方法] ①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行います。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] 中村英郎著「新民事訴訟法講義」（成文堂）¥3000 霜島ほか著「目で見える民事訴訟法教材 第2版」（有斐閣）¥1600 なお、講義に際しては、平成 15 年版の「六法」を常に携帯して下さい。 「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
哲学		通期	4単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本学での倫理学の授業の中で、学生諸君に「哲学は必要か？」という問いをしたところ、少なからぬ人が「そのそも哲学というものが何を研究する学問なのか分からないので、答えようがない」という返答をした。哲学の対象分野が必ずしも明確ではないことは事実であり、そもそも「哲学とは何か？」という自体がすでに哲学的問題であると言える。だが、対象分野が明確ではないとしても、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというものが存在すると考える。本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの数人の哲学者の思想を紹介しながら、哲学的な問題意識のあり方というものに触れてもらい、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを旨とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 古代ギリシャ 2, 近代 3, 現代 <p>という大きな枠組みで論じていく予定。 授業中の積極的な発言を期待する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末テスト 80点 授業中のエッセイ（前後期に各三回程度実施する予定） 20点</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査実習		通 期	4 単位	過 放
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、「社会調査」の単位取得者を対象に、小人数・演習形式によって、社会調査についての深い知識と技法を修得することを目的として開講される。授業では、社会調査の企画・調査票の作成・調査の実施、コンピューターを使った調査データの解析・報告書の作成という一連の流れを実際に体験してもらう。正規の授業時間以外にも（休暇期間中にも）きわめて多くの学習・作業時間を必要とするので、安易な気持ちで受講してはならない。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p> <p>なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論・データ解析演習）」も履修すること。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の企画・立案 ・調査票の作成 ・調査の実施 ・調査データの解析 ・調査報告書の作成 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業に最後まで出席し、調査報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象者となる。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院大学社会学部社会調査実習室『社会調査実習報告書』（1994年度以降、毎年発行） ・その他適宜指定する。 		
<p>[教科書]</p> <p>大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 森岡清志編著『ガイドブック社会調査』日本評論社。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講（データ解析演習）		秋学期	2 単位	過 放
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、コンピューターを用いたデータ解析法の修得を目標に開講する。「社会調査実習」履修者は、かならず履修すること。</p> <p>授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行なわれるが、とくにこの「社会学特講（データ解析演習）」の部分に関しては、主として社会調査データのコンピューターによる分析技法の習得に重点をおく。「社会調査実習」および「社会学特講（社会調査方法論）」とあわせて、かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計パッケージSPSSの利用方法 ・コンピューター上での変数の定義 ・データ入力と修正・加工 ・度数分布表とクロス集計表の作成 ・合成変数（尺度）の構成 ・クロス集計とエラポレーション ・多変量解析法 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院大学計算機センター『ユーザーズ・ガイド』 ・その他適宜指定する。 		
<p>[教科書]</p> <p>とくに使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講（社会調査方法論）		春学期	2単位	過 放
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に開講するもので、社会調査のより高度な技法について理解を得ることを目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず同時に履修登録すること。</p> <p>授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行なわれるが、とくにこの「社会学特講（社会調査方法論）」の部分に関しては、主として社会調査の理論的側面に重点をおく。かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と仮説 ・標本抽出法 ・統計的検定 ・クロス集計とエラーポレーション ・コーディング ・尺度構成法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原純輔ほか『社会調査演習』東京大学出版会 ・その他適宜指定する。 			
<p>[教科書]</p> <p>森岡清志編著『ガイドブック社会調査』日本評論社。 大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者								
政治学原論		通期	4単位	捧 堅 二								
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>政治学の原理及び現代の政治理論について その理論的な最前線を見据えつつ講義したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 原理と自然</td> <td style="width: 50%;">2 政治学の起源</td> </tr> <tr> <td>3 人間と政治</td> <td>4 イデオロギー</td> </tr> <tr> <td>5 真理と政治</td> <td>6 国家</td> </tr> <tr> <td>7 ヘルと行政幹部</td> <td>8 右翼と左翼</td> </tr> </table>				1 原理と自然	2 政治学の起源	3 人間と政治	4 イデオロギー	5 真理と政治	6 国家	7 ヘルと行政幹部	8 右翼と左翼
1 原理と自然	2 政治学の起源											
3 人間と政治	4 イデオロギー											
5 真理と政治	6 国家											
7 ヘルと行政幹部	8 右翼と左翼											
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席状況(3分の2以上の出席が必要) ②レポート・小テストを実施。 ③定期試験を実施する。 ④成績評価は厳格に行う。</p> <p>注意: 講義中の私語、飲食は許さない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に随時あげる。</p>											
<p>[教科書] 使用しない</p>												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	安 藤 洋 美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1936年W. F. ウィルコックスは130近い統計学の定義を与えた。それによると、統計学にもいろいろな流派があるらしいことが分かる。この講義では、それらの統計学のなかで、多くの数値データから得られる情報を要約する数学的方法について、できるだけ平易に、具体例に基づいて、かつその歴史的背景にも踏み込んで講義していくつもりである。</p> <p>最近はいろいろな統計プログラム・パッケージが出回って、データさえ入力すれば苦勞なくデータの統計処理ができる。統計の諸概念や統計手法の意味を理解しなくても結果はでてくる。このことは非常に危険なことで、羅針盤なく航海するようなものである。ある程度の数学的計算は行わねばならないので、その点は覚悟しておいてほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 記述統計によるデータの集約方法 代表値、散布度、相関 確率計算 主たる確率分布 二項分布、ポワソン分布、正規分布など 大数法則と中心極限定理</p> <p>(後期) 正規分布からの標本分布 t分布、χ^2分布、F分布 点推定と区間推定 仮説検定 多変量解析入門</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点と期末試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』（東大出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術総論		春学期集中	4 単位	小 山 隆
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。 2 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 4 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。 5 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。	1 社会福祉サービスと援助活動の関係 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 3 専門援助技術の歴史的展開 4 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題 1) 社会福祉援助活動の目的と価値 2) 社会福祉援助活動の原則 3) 社会福祉援助活動の諸過程 ① 受面接（インテーク）と社会診断 ② 社会治療 ③ 終結 4) 社会福祉援助活動の共通課題 ① 契約・介入・課題の意義と方法 ② 面接の意義と方法 ③ 記録の意義と方法 ④ 評価の意義と方法 ⑤ スーパービジョンの意義と方法 ⑥ ケースマネージメントの意義と方法 5 専門援助技術の体系及び内容 1) 直接援助技術 ① 個別援助技術（ケースワーク） ② 集団援助技術（グループワーク） 2) 間接援助技術 ① 地域援助技術（コミュニティワーク） ② 社会福祉調査法 ③ 社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション） 3) その他の関連専門援助技術 6 社会福祉援助活動の場と専門援助技術 7 専門援助技術と倫理 8 専門援助技術の統合化とチームによる対応 9 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向			
[成績評価の方法]	出席 + 小レポート + 期末考査			
[教科書]	なし			
[参考文献]	必要に応じて授業中に指示する			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術論 I (旧社会福祉援助技術各論 I A)		通 期	4 単位	〈春〉 山 野 則 子 〈秋〉 石 田 易 司
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。 1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。 2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。 3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。 4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。 5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。 6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。	1. 社会福祉サービスと援助活動の関係 2. 福祉専門職と専門援助技術の関係 3. 専門援助技術の歴史的展開 4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題 1) 社会福祉援助活動の目的と価値 2) 社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む） 3) 社会福祉援助活動の展開過程 ① 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント） ② 援助活動の開始 ③ 援助活動の評価 4) 社会福祉援助活動の共通課題 ① 契約・介入・課題の意義と方法 ② 面接の意義と方法 ③ 記録の意義と方法 ④ 評価の意義と方法 ⑤ 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法 ⑥ 個別事象の継続的援助（ケースマネージメント）の意義と方法 5. 専門援助技術の体系及び内容 1) 直接援助技術 ① 個別援助技術（ケースワーク） ② 集団援助技術（グループワーク） 2) 間接援助技術 ① 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法 ② 地域援助技術の概念と基本的性格 ③ 地域社会の組織化 ④ 地域援助技術 ⑤ 社会活動法 ⑥ 社会福祉調査法の理論と技法 ⑦ 社会福祉調査の基本的性格と類型 ⑧ 統計調査法における調査技術 ⑨ 事例調査における調査技術 ⑩ 社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む） 6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術 7. 専門援助技術と倫理 8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応 9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向			
[成績評価の方法]	出席状況、レポート、学期末試験等によって総合的に評価を行う。			
[教科書]	(春) 『社会福祉援助技術論（上）（下）』ミネルヴァ書房 (秋) キャンピング フォー オール(エルビス社) さかさまの星座(オモドック)			
[参考文献]	大塚達也他編著『ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎』 ミネルヴァ書房 E.P.バイスティック著 尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（精神書房） 新しいグループワーク（YMCA同盟） はじめて学ぶグループワーク（ミネルヴァ書房）			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論ⅠB		秋学期集中	4単位	石 田 易 司
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。	1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格 2 集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術 ①直接援助技術と集団援助技術 ②集団援助技術の意義と特徴 ③集団援助技術の歴史 ④集団援助技術の構造と構成要素 ⑤集団援助技術の機能 ⑥集団援助技術の援助関係と原則 ⑦集団援助技術の展開過程と技術 ・準備期 ・開始期 ・作業期 ・終結期 ⑧集団援助技術の各種モデル ⑨観察の意義とその技法・技術 ⑩記録の意義とその方法 ⑪効果測定の意味とその技法・技術 ⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬スーパービジョンの意義とその方法			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
日常のレポートと前期のレポート	『新しいグループワーク』（YMCA同盟） 『はじめて学ぶグループワーク』（ミネルヴァ書房）			
[教科書]				
『さかさまの星座』（オモドック） Camping for all（エルピス社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論Ⅱ		通 期	4単位	玉 置 好 徳
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 間接援助技術の内容と性格について理解させる。 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 3 社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。 4 社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。	1 間接援助技術の内容と性格 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域社会の組織化 ①地域組織化 ②福祉組織化 3) 地域援助技術 ①地域社会の診断方法 ②集団及び組織の診断方法 ③住民組織の方法 ④社会資源の開発と活用の方法 ⑤集団及び組織・機関の調整方法 ⑥情報の収集・伝達及び活用方法 ⑦記録と評価の方法とその活用方法 ⑧地域福祉計画の策定方法 3 社会福祉調査法の理論と技術 1) 社会福祉調査の基本的性格と類型 ①基本的性格 ②諸類型 2) 統計調査法における調査技術 ①特質と意義 ②標本抽出の理論と技法 ③調査方法・手順・諸過程及び技術 3) 事例調査における調査技術 ①特質と意義 ②調査方法・手順・諸過程及び技術			
[成績評価の方法]				
期末課題の評価及び平常成績				
[教科書]				
福祉士養成講座編集委員会（編） 新版・社会福祉士養成講座9『社会福祉援助技術論Ⅱ』（中央法規） ¥2,500-（税別）				
[参考文献]				
井岡勉・成清美治（編）『地域福祉概論』（学文社 2001年） ¥2,100-（税別） （※テキストを補完するために使用しますので、必ず購入すること。）				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ケアマネジメント		秋学期	2単位	浜田和則
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>講義概要：要介護等高齢者支援の機関で活用されているケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習・フィールドワーク（課題・宿題になります。）を交えて実体験的に学習する。講義等の中では関連領域である、介護保険制度の概要・契約、コストマネジメントやマネジメントケア、苦情解決の実際、介護事故対応・防止を主体としたリスクマネジメントについても少しだけ触れたいと考えている。</p> <p>なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開講までに終了予定で、開講期間を通じて欠席せずに来られる人の履修を希望します。なお、講義は出席と講義時に実施する演習の参加を重視する。</p> <p>学習目標：理論的な理解と同時に演習・フィールドワークを通じて実体験し、将来実務に役立つ援助技術方法概要の習得を目指す。また、この分野に関心を持ってもらうことにより、実践現場へのマンパワーの輩出をあわせて目標とする。</p>	<p>第一回 講義計画とケアマネジメントの概要①～ケアマネジメントの成り立ち～</p> <p>第二回 ケアマネジメントの概要②～介護保険制度におけるケアマネジメント～</p> <p>第三、四回 ケアマネジメント過程①～入口、ケース発見、申請・要介護認定調査～ (認定調査体験演習；ビデオ使用、二人ペアで調査面接を体験)</p> <p>第五回 ケアマネジメント過程②～認定審査会、インテーク、サービス利用契約～ (インテーク・サービス利用契約演習；二人ペアで重要事項、契約内容説明)</p> <p>第六回 ケアマネジメント過程③ ～アセスメント(1)生活ニーズとアセスメント～</p> <p>第七回 ケアマネジメント過程④ ～アセスメント(2)ニーズアセスメントとアセスメント表～ (アセスメント表作成演習；資料、ビデオからアセスメント表を記入)</p> <p>第八回 ケアマネジメント過程⑤ ～ケアプラン(1)ケアプランの種類、構造と社会資源～</p> <p>第九回 ケアマネジメント過程⑥～ケアプラン(2)居宅サービス計画原案作成～</p> <p>第十回 ケアマネジメント過程⑦～サービス担当者会議～サービス担当者会議演習</p> <p>第十一回 ケアマネジメント過程⑧～モニタリングと苦情処理、苦情解決の方法～</p> <p>第十二回 日本における施設ケアマネジメントへの潮流</p> <p>第十三回 ケアマネジメントとリスクマネジメント</p> <p>第十四回 障害者ケアマネジメントと社会福祉基礎構造改革、海外のケアマネジメント</p>			
[成績評価の方法]	講義内容を記入した出欠票と演習時の課題物提出、レポートまたは試験により評価。			
[教科書]	[参考文献]			
<p>(社)日本社会福祉士会編「平成12年度 介護支援専門員実務研修課題分析 手法資料『ケアマネジメント実践記録様式』(日本社会福祉士会方式)」 2002年、(社)日本社会福祉士会</p> <p>*但し、改訂版が出版された場合はそちらを使用します。</p>	<p>白澤 政和 他編「ケアマネジメント講座①～③」中央法規出版、2000年</p> <p>浜田 和則 他編「介護支援専門員のしごとを支えるQ&A」中央法規出版、2000年</p> <p>(財)長寿社会開発センター編「介護支援専門員専門員 基本テキスト」2001年</p> <p>浜田 和則 他編「ヘルパーステーションの運営管理」中央法規出版、2000年、他</p>			

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術演習1	01	通期	-	<春学期> 石田 易司 <秋学期> 安原 佳子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
[成績評価の方法]	授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。			
[教科書]	[参考文献]			
授業時に提示する。	授業時に適宜紹介する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	0 2	通 期	-	大 西 雅 裕
社会福祉援助技術演習 2	0 3	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。	授業時に適宜紹介する。			
[教科書]				
授業最初時に提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	0 3	通 期	-	竹 内 公 昭
社会福祉援助技術演習 2	0 4	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>(1) 出席数</p> <p>(2) レポートの内容</p> <p>(1) (2) を勘案して I T 評価します。</p>	(新) 社会福祉援助技術演習・中央法規出版			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	0 4	通 期	—	竹 中 麻由美
社会福祉援助技術演習 2	0 5	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート、小テスト等により、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業時に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『"気づく"から"学ぶ"へ対人援助ワークブック』（久美株式会社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	0 5	通 期	—	藤 田 譲
社会福祉援助技術演習 2	0 6	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況＝50％ 課題レポート（適時）・小テスト（7回）＝50％ 上記の比重にて評価を行う</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>大西雅裕・山本克彦編著 『シリーズ～"気づく"から"学ぶ"へ～対人援助ワークブック』（久美出版）</p> <p>平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』（ミネルヴァ書房） その他、内容に応じた資料も配付予定である</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	06	通 期	—	鶴 宏 史
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、授業での態度、レポート、テストにより、総合的に評価する。	川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』 （中央法規出版、2002年）			
[教科書]				
北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子（編） 『ソーシャルワーク演習（上）』（有斐閣、2002年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	07	通 期	—	山 野 則 子
社会福祉援助技術演習 2	08	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、授業への参加度、レポート、試験等によって総合的に評価を行う。	F. P. バイスティック著 尾崎新ほか著『ケースワークの原則』 （精神書房）			
[教科書]	適宜紹介する			
授業時に提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 1	0 8	通 期	-	植 田 寿 之
社会福祉援助技術演習 2	0 9	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点 40%</p> <p>春学期レポート 30%</p> <p>秋学期レポート 30%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>社会福祉教育方法・教材開発研究会（編） 『新社会福祉援助技術演習』（中央法規出版）</p> <p>奈良県社会福祉協議会（編） 『ワーカーを育てるスーパービジョン』（中央法規出版）</p> <p>黒木保博他『グループワークの専門技術』（中央法規出版）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 2	0 1	通 期	4 単位	<春学期> 鶴 宏史
				<秋学期> 安原 佳子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業時に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業時に提示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 2	0 2	通 期	4 単位	上野谷 加代子
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。	[参考文献] 授業時に適宜紹介する。			
[教科書] 授業時に提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習 2	0 7	通 期	4 単位	田 中 信 行
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 授業態度及びレポート内容	[参考文献] ①『社会福祉養成講座15 社会福祉援助技術演習』（新版第2版） ②『ソーシャルワーク演習（上）（社会福祉基礎シリーズ4）』 ③『ソーシャルワーク演習（上）（社会福祉基礎シリーズ5）』			
[教科書] 指定教科書（未定）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	01	通 期	2 単位	荒川 輝男 川東 光子 北野 誠一 阪野 学 坂本 光哉 田中 信行 淡野 勝也 西浦 太一 松端 克文 山本 晃
	02	通 期	2 単位	
	03	通 期	2 単位	
	04	通 期	2 単位	
	05	通 期	2 単位	
	06	通 期	2 単位	
	07	通 期	2 単位	
	08	通 期	2 単位	
	09	通 期	2 単位	
	10	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 配属実習オリエンテーション 2 専門援助技術実技指導 3 面接実技指導 4 記録実技指導 5 評価・効果測定実技指導 6 配属実習 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 8 レポートに基づく個別指導 9 全体総括会 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。				
[教科書]				
授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ	01	通 期	2 単位	〈春〉鶴 宏文 〈秋〉安原佳子 上野谷加代子 大野 定利 川東 光子 坂本 光哉 佐竹 豊 田中 信行 坪山 孝 金澤ますみ 藤田 譲 松端 克文
	02	通 期	2 単位	
	03	通 期	2 単位	
	04	通 期	2 単位	
	05	通 期	2 単位	
	06	通 期	2 単位	
	07	通 期	2 単位	
	08	通 期	2 単位	
	09	通 期	2 単位	
	10	通 期	2 単位	
	11	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 配属実習オリエンテーション 2 専門援助技術実技指導 3 面接実技指導 4 記録実技指導 5 評価・効果測定実技指導 6 配属実習 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 8 レポートに基づく個別指導 9 全体総括会 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。				
[教科書]				
授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅳ		通 期	2 単位	藤 田 讓
〔実習概要・学習目標〕 このクラスは、保健医療機関（精神保健分野を除く）で実習を行う学生を対象とするので、これまで履修した科目・実習体験を踏まえて、以下の目標に沿って運営していく。 1 保健医療機関での実習に求められるマナーを身に付ける 2 各自の実習施設の機能や特徴を理解する 3 保健医療機関の現状について、実習体験を基に理解を深める 4 保健医療におけるソーシャルワーカーの意義とソーシャルワーカーの役割を考える クラスでは、この目標に応じた課題の発表や実習状況の個別報告を通じて、医療分野の固有性を理解し、実習体験を共有できるようにしたい。	〔実習計画〕 【前期】 実習前もしくは実習初期の段階として、以下の課題を行う 1 電話の応答・来客への応対などマナーの習得 2 保健医療機関の機能や特徴の把握 3 保健医療の現状と問題についての理解 4 実習状況の報告 【後期】 実習の総括を行う 1 実習状況の報告 2 実習施設におけるソーシャルワーカーの役割の理解 3 実習成果の確認とまとめ			
〔成績評価の方法〕 クラスへの出席・課題への取り組み・実習先の評価を総合して評価する クラスおよび実習については、原則として毎回出席が必要である	〔参考文献〕 荒川義子編著『スーパービジョンの実際』（川島書店） 杉本照子編著『医療におけるソーシャルワークの展開』（相川書房）			
〔教科書〕 荒川義子編著『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉発達史（旧社会福祉発達史Ⅰ,Ⅱ）		通 期	4 単位	木 村 和 世
〔講義概要・学習目標〕 明治の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。 福祉史を具体的に身近なものとして感じるために、南河内地方の農村や大阪の都市を扱って、その様子を見ていく。 過去の福祉史は決して過去のものではなく、現代を見る眼を養うものであるということを、 講義を通して学んでほしい。	〔講義計画〕 1. 明治期の恤救規則から工場法の成立 2. 社会問題の発生と社会福祉 3. 大正期の都市のリベラリズムの光と影 4. 村嶋歸之と大阪 5. 社会事業から厚生事業へ 6. 戦後の混乱と福祉政策 7. 経済成長期の福祉 8. 現代の抱える問題と福祉			
〔成績評価の方法〕 出席を重視する テスト、レポートについては講義時に通知する	〔参考文献〕 『日本社会事業史』吉田久一 『都市の近代・大阪の20世紀』芝村篤樹 『大正/大阪/スラム』杉原薫 玉井金五編 『昭和20年 1945年』藤原彰 粟屋憲太郎 吉田裕			
〔教科書〕 プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉法制論		春学期集中	4 単位	瀧澤 仁唱
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会福祉（狭義）の法制度全体の理解をまず行い、次に社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解を深める。社会福祉（狭義）は援護を必要とする人々にとって最後のとりでとなる制度である。2003年4月1日から、措置制度から「契約制度」へ変わり、50年以上続いてきた日本の社会福祉法制度が大きく変更される。そのため、従来の社会福祉の考えだけでは、理解できない事態が生じる。利用者と社会福祉サービスを提供するものが対等の立場にたつて契約によるサービス提供が行われるはずであるが、実際に制度がどのように機能するかは未知数である。この講義では、社会福祉法（狭義）の基本となる部分をまず講義し、次に障害者福祉法、老人福祉法（介護保険法を含む）ならびに児童福祉法および母子福祉関係法の内容を紹介し、社会福祉に関連する諸法規の理解を深める。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 ガイダンス 16 障害者福祉法 (5) 2 社会福祉の意義 17 障害者福祉法 (6) 3 社会福祉法の発生 18 障害者福祉法 (7) 4 憲法と社会福祉法 19 老人福祉法 (1) 5 社会保障法の中の社会福祉法の位置 20 老人福祉法 (2) 6 社会福祉法 (1) 21 老人福祉法 (3) 7 社会福祉法 (2) 22 老人福祉法 (4) 8 社会福祉法 (3) 23 児童および母子福祉関係法 (1) 9 社会福祉法 (4) 24 児童および母子福祉関係法 (2) 10 社会福祉法 (5) 25 児童および母子福祉関係法 (3) 11 社会福祉法 (6) 26 児童および母子福祉関係法 (4) 12 障害者福祉法 (1) 13 障害者福祉法 (2) 14 障害者福祉法 (3) 15 障害者福祉法 (4)</p> <p>(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>論述式筆記試験</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉六法 2002(平成14)年版』(新日本法規)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護演習（旧介護実習）	01 02	8月集中 8月集中	2単位 2単位	佐瀬 美恵子 伊達 京子
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>介護概論を受けて、介護の理論と技術を実践的に展開する方法について学習する。加齢や心身の障害をもちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるか、尊厳や個性を尊重した援助を行うことができるか、予防的な視点をもって援助を行うことができるか、さらには生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人をどのように援助できるか、具体的な事例を用いて学びあう。</p>		<p>[演習計画]</p> <p>介護を必要とする人々への援助に必要な技術・方法について考える。小グループに分かれ、事例を用いて具体的な援助について検討し、理解を深める。</p> <p>1. 介護を必要とする人々のアセスメント 2. ケアプランについて 施設におけるケアプラン 在宅生活を支えるケアプラン 3. 具体的な援助方法について 4. 評価</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートと平常点（出席率および演習への参加状況）などを総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>・小宮 英美著「痴呆性高齢者ケアグループホームで立ち直る人々」中公新書 ・講義の中で適宜紹介する</p>		
<p>[教科書]</p> <p>社会福祉士養成講座 14 介護概論 中央法規</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
カウンセリング		通 期	4 単位	川 口 茂 雄
【講義概要・学習目標】 現代は不安の時代と言われている。人びとは、厳しい社会状況の中で、孤独と強いストレスにさらされ、家庭、学校、職場などでの人間関係で悩み苦しんでいる。このような不適応状況にある人びと（クライアント）が、援助者（カウンセラー）とのコミュニケーションによって、人間関係の改善や自己実現を図ってゆく心理学的面接をカウンセリングと呼んでいる。 本講座では、カウンセラーはどのような態度や技法でもってクライアントとかかのか、カウンセリングはどのように展開してゆくのか、カウンセリング過程で生ずる諸問題をどのように解決するのかなど、ケースワークとは異なるカウンセリングの実際を理解させる。 前期ではカウンセリングの基礎的理論、技法、進め方などビデオやテープの視聴を交えながら学習させ、後期ではロールプレイによる体験学習を実施して、その実際を具体的に習得させる。	【講義計画】 1 カウンセリングとは何か 2 カウンセリングの理論 3 カウンセラーの基本的態度 4 カウンセリングの技法 5 カウンセリングの展開 6 カウンセリングの終結 7 カウンセリング過程で生じる諸問題 8 結婚カウンセリング 9 学校カウンセリング 10 カウンセラーの専門性と倫理 11 ロールプレイによる体験学習			
【成績評価の方法】 レポート提出及び実技等によって総合的に評価する。	【参考文献】 河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房 澤田瑞也他編「キーワードで学ぶカウンセリング」世界思想社 東山紘久著「プロカウンセラーの聞く技術」創元社			
【教科書】 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習		通 期	4 単位	岸 本 裕 一
<p>[講義概要・学習目標] この経営学基礎演習では、学習目標として以下の4点を想定しています。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することに努めること、 2. 経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること 3. 自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢をみにつけること、 4. カリキュラムを理解し、コース選択に備えること、以上です。 <p>これらのことを実現していくため、本学の持っているさまざまな優れた諸施設を有効に利用しながら、演習を進めていきます。すなわち常時計算機センターの実習室で演習を行い、受講生の基礎的な情報リテラシーの向上をめざします。また、学ぶための資料や文献の収集を行えるようになるために、インターネットによる検索や図書館での図書・雑誌検索の実習を行います。</p> <p>この演習は、毎回、受講生の積極的な関与がなくては成立しません。そこが他の講義科目と異なるところです。したがって、規則正しい学習の態度と毎回の出席が望まれます。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編入学生にとって必要な基礎的学習テクニック（レポートやレジュメの作成、演習での報告の仕方など）を習得する。 2. 簡単な経営学に関する文献を熟読して、その要約をワープロで作成する。 3. 図書館での情報検索実習を行う。 4. 教科書（2）を熟読して、マーケティングの基礎を学ぶ。 <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書（1）を熟読して、経営学を歴史的視点から精緻に理解するとともに、そこに含まれるキーワードの意味を吟味する。 2. 本学部での系統的履修を促すために、履修指導を行う。 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席の状況、普段からの授業への関与度、数回のテストの成績などの集約。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行にしたがって指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 米倉誠一郎著『経営革命の構造』、岩波新書、1999年。 2. 岸本裕一・田中達彦著『タイアップソング・マーケティング』同文館出版、1998年。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	0 1	通 期	4 単位	前 鶴 政 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、経済学の基礎理論である、ミクロ経済学とマクロ経済学を学びます。</p> <p>ミクロ経済学とは、消費者や生産者などの経済主体の個々の最適な選択行動を分析する学問であり、マクロ経済学とは、経済主体の選択行動の結果を集計した変数を用いて、全体としての経済の相互関係を分析する学問です。</p> <p>経営学を学ぶ皆さんに、経済の仕組みについて理解してもらい、経済学的な分析能力を身に付けてもらうことを目標としています。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学とは何か 2. 消費者行動の理論 3. 生産者行動の理論 4. 市場均衡 5. マクロ経済学とは何か 6. 国民所得の決定 7. 貨幣の需給 8. IS-LM分析 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績で評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>伊藤元重、『ミクロ経済学』、日本評論社、1992年。 伊藤元重、『マクロ経済学』、日本評論社、2002年。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>荒井一博・花井敏、『経済学入門—ミクロ&マクロ』、中央経済社、2002年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	0 2	通期	4 単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思います。</p> <p>近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思っています。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。</p> <p>講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス—日米貿易摩擦と貯蓄— 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、諸問題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式（命題に対する解説）をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 <p>その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>惣宇利紀男、服部容教編『21世紀日本の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商学総論	0 1 0 2	通 期 通 期	4 単位 4 単位	中 田 善 啓
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業が行っている取引を商学の観点から説明する。これまででは商学は流通が中心であったが、市場形成活動を中心に視点を拡大して、部品供給企業、製造企業、流通企業、消費者の取引をみていく。</p> <p>取引の観点からみると、企業は市場の懸隔を架橋している。これは市場を形成していることを意味する。市場形成活動は企業と顧客の取引を媒介する。そのために企業は上流市場と下流市場で取引ネットワークを構築する。企業は取引を効率的に行うために、他企業と統合だけでなくアウトソーシング、提携を通じてネットワーク化を図っている。さらに、市場形成戦略を見ていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商学と市場創出 2. 需給マッチングと情報 3. 市場創出活動と裁定取引 4. 仲介活動 5. ネットワーク化 6. 参入戦略 7. 攻撃的戦略と防御的戦略 8. ブランド 9. 創発 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストを中心に成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田善啓著『マーケティングの進化』同文館 1998年 中田善啓著『マーケティング戦略と競争』同文館 1992年 中田善啓著『マーケティングと組織間関係』同文館 1986年 授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田善啓著『マーケティングの変革』同文館 2002年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営・商学特講（インターンシップ）		集中コース	2 単位	武田 久義
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験をするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。</p> <p>なお、当科目については、4月に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修登録ができないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>プログラムの概要</p> <p>(1) 事前研修 ①プログラムのガイダンス ②研修企業・団体等の事前学習 ③ビジネスマナーの指導 ④研修要領の説明と報告書の作成指導</p> <p>(2) 研修期間 夏期休暇中（60時間以上、2週間の予定）</p> <p>(3) 事後研修 研修結果の報告</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを合わせて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
経営・商学特講（国際リスクマネジメント） （経済学特講（国際リスクマネジメント））		春学期	2 単位	武田 久義
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化にともない、国際ビジネスに関する知識がますます必要になってきている。そして、現在および将来の社会においては、リスクが一層増大することがかなり明らかになりつつある。このような状況の中で、国際ビジネスに関連するリスクをトータルに把握し、それへの対応を行うことは必然的に重要なものとなる。そして、これに関連する知識もまた当然のことながら、不可欠なものとなっている。</p> <p>この講義は、国際ビジネスにおけるリスクマネジメントを広い視野から学ぶことを目標としている。それも、できるだけ実践的な経験をふまえた知識について講義することを基本としている。この講義はインテグレーション形式で行われるが、各講師はすべて国際ビジネスの実務に長年携わった経験を有している。その経験に基づいて、一面では国際ビジネスにおける人事・財務・為替・保険・投資等の活動におけるリスクやマネジメントについて、そしてまた、日本と深い関係を有する地域や国々をも勘案しつつ、幅広い観点から国際ビジネスにおける諸問題について講義する予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(1) 国際ビジネスとリスクマネジメント (2) カントリーリスク (3) ファイナンシャルリスク (4) オペレーションリスク (5) 海外における企業経営に関するリスク (6) 中国とのコミュニケーション基礎知識 (7) アセアン (8) オーストラリア (9) イスラム諸国 (10) ラテンアメリカ (11) アメリカ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
環太平洋圏経営研究 (旧経営・商学特講(環太平洋圏経営研究))		通 期	4単位	岸本 裕一
[講義概要・学習目標] 日本を含む環太平洋圏(南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域)は、文明の転換期とも言えるべき歴史的ダイナミズムの中にある。1998年に起こったアジアの金融危機はその1つの端緒であり、また、中国とアセアンの自由貿易協定の締結というニュースも以前の常識からは想像しにくいことである。このような中において、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件であり、また、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るのできない学びとなっている。 トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。	[講義計画] ＜春学期＞ 第1回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第2回以降は、韓国、中国、アメリカ、中南米、ロシア極東地域の経済動向と経営の展開について、専門家によるリレー講義となる。 ＜秋学期＞ 最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組などにつき専門家のリレー講義となる。 そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。 (注記)春・秋学期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションに時点で公表される。			
[成績評価の方法] 1. 講義への出席と関与の程度 2. レポートの評価	[参考文献] 特に指定しない。			
[教科書] 特に指定しない。				

経営
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論C	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	竹 内 昭 浩
[講義概要・学習目標] ワークステーションの標準的OS(オペレーティング・システム)であるUNIX(Linux)の入門と、FortranおよびC言語とを用いて、プログラミングの基礎を学習する。	[講義計画] (前期) (後期) 1. UNIX(Linux)入門 7. ファイルの操作 2. viエディタ入門 8. 副プログラム 3. Fortranでの 9. C言語での 簡単なプログラム 簡単なプログラム 4. if文 10. 変数と算術 5. do文 11. for文とwhile文 6. 配列 12. 関数			
[成績評価の方法] 試験の結果と、提出してもらったレポートを加味して評価する。	[参考文献] 坂本文(著)「たのしいUNIX」(アスキー出版) 浦昭三(著)「FORTRAN77入門」(培風館) カーン・リッチー(著)「プログラミング言語C 第2版」(共立出版)			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論D	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	三 木 大 史
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>Windows上でのアプリケーションプログラムを実際に作成することによって、プログラミングの基本とコンピュータに対する本質的な理解を深める。それにより広範なコンピュータの活用能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>Windows上のプログラミングの特徴は、ユーザーとコンピュータとのやりとりのために画面に様々な部品のレイアウトを決め、マウスを動かしてクリックしたりドラッグしたり、キーボードから入力があったりするたびに処理が行われるところであり、このような特徴をもつプログラミングをイベント駆動型のビジュアルプログラミングという。</p> <p>プログラミングの統合開発環境としてDelphiを使用する。これはWindowsプログラミングに対する数々の優れた特徴を持つ。また、教育用に開発されたPascalというプログラミング言語を採用しており、プログラミングの作法を学ぶのに最適である。</p> <p>受講にあたって、プログラミングに関する知識は特に必要ないが、Windows上のワードプロセッサや表計算ソフト使用経験がある程度必要である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(1) Delphiの統合開発環境の概要、 文字を表示するアプリケーションソフトウェアの作成</p> <p>(2) チェックボックスとラジオボタン (if文)</p> <p>(3) 流れ図によるイベント処理の流れの把握</p> <p>(4) 文字と整数値の演算をするアプリケーションソフトウェアの作成 (変数の型)</p> <p>(5) リストボックスとコンボボックス (while文, for文)</p> <p>(6) 簡単な集計表の作成 (配列) .</p> <p>(7) エラーメッセージとエラーへの対処.</p> <p>(8) ダイアログボックスとメッセージボックス</p> <p>(9) オープンダイアログとセーブダイアログ.</p> <p>(10) メニュー、ツールバーのボタンの作成.</p> <p>(11) テキストファイルを開き、または新規作成して編集でき、 名前を付けて保存、または上書き保存できる簡易エディターの作成</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験は行わず、出席および課題レポートにより評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>村上宣寛 (著) 『やさしいDelphi』 日刊工業新聞社 服部 誠 (著) 『Borland Delphi6 オフィシャルコースウェア (基礎編)』 アスキー</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営基礎数学		通 期	4単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営に関わる種々のオペレーショナルなレベルの業務、例えば、生産および物流計画・管理業務、マーケティング業務、人事および労務計画・管理業務などにおいて、意思決定を行う際、データ、情報をコンピュータを用いて分析しなくてはならない場面が多い。近年の情報ネットワークの発達によって膨大な情報の収集が可能となったことから、益々それら情報の分析が重要となっている。本講は、その分析方法を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、以下のアプローチをできるだけ平易に概説する。可能ならば、コンピュータを用いて実習する。</p> <p>1. 統計学の基礎 2. 経営意思決定のための基礎数学 (線形計画法、組み合わせ数学、ネットワーク論) 3. コンピュータシミュレーション</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計理論の基礎を学習する。 ・経営関連データへの統計理論の応用をコンピュータ実習を介して行う。 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形計画法を中心に学習し、非線形計画法の概要を学習する ・簡単な組合せ数学およびネットワーク理論を学習する。 ・統計理論、ORの応用として、コンピュータシミュレーションを学習する。 <p>受講者が多い場合、コンピュータによる演習はデモンストレーションレベルに止める。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
オペレーションズ・リサーチ		通 期	4 単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>辞典によれば、オペレーションズ・リサーチとは、『システム運用上の問題に、数学的・科学的方法を適用し、最適の選択を発見する技法。経営、軍事での意思決定や、作戦計画などに利用』とあり、ORと略して呼称される。軍というぶっそうな言葉がこの説明の中にはあるが、要はいろいろな仕事をする上で、費用においてもスピードにおいても最適なやり方を、科学的に明らかにしようとするのがこの科目を勉強する意味である。近年では、発見された最適な方法をコンピュータプログラムにして利用することで我々の生活を豊かにしてくれている。例えば、車に搭載されたナビゲーションシステムで最短のルートを示してドライバーに示してくれたり、最も利益が上がるようにコンピュータが自動的に株の売買をしてくれたり、コンビニエンスストアでお客さんが満足がいくようにまた店舗の運営費用が安くなるように商品の発注を自動的に行ってくれたりするのはその例である。本講では、事例を用いながらORの基礎的理論を勉強する。特に、情報処理関連試験を受けようとする人達にとっては重要な科目であるとともに、将来、プランニングに関わろうとする人達にとっても学習することで得た知見は役に立つであろう事を保証する。</p> <p>人数の少ない場合、コンピュータを利用したいと考えています。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>左記学習内容の講義を行うが、具体的には下記の課題について事例を踏まえながら講義を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最適な量を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・最適な生産量を計画する ・最も売上が上がるようにマーケティング予算を媒体に割り振る ・品切れがおこらずかつ店舗運営費用が安いように商品の在庫を計画する 2. 最適な組み合わせを発見する。 <ul style="list-style-type: none"> ・最も速くいくルートの発見 ・最も適切な人員の配置計画の発見 ・最も利益の上がる生産・販売すべき製品種の発見 3. 最適計画って簡単に見つかるんですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションの役割 ・人工知能技術の役割 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの小説 (現代イギリス小説入門)		春学期	2 単位	日 下 隆 平
[講義概要・学習目標] この授業では、今世紀前半の代表的な作家であるモーム、マンズフィールド、オーウェル、フォースターなどによる短編小説を講読する。いずれも平明な文章であるが豊かな内容を持つものばかりである。主な作品は以下のとおりである。授業方法は順番に指名して読む形で行います。	[講義計画] W. S. Maugham, <i>The Romantic Young Lady</i> Katherine Mansfield, <i>The Singing Lesson</i> George Orwell, <i>Shooting an Elephant</i> E. M. Forster, <i>Ansell</i>			
[成績評価の方法] 平常点と試験。	[参考文献]			
[教科書] <i>College Reader for Everybody: Maugham, Mansfield, Orwell, Forster.</i> (鶴見書店、1996).				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの小説 (『武器よさらば』を読む)		春学期	2 単位	伊藤 貞基
[講義概要・学習目標] ハード・ボイルドの文体とタフ・ガイのイメージ、また、アフリカでの猛獣狩りなどで行動の人としても知られる Ernest Hemingway (1899-1961) の代表作『武器よさらば』(1929) を読む。1929 年出版のこの小説は戦争を背景とした恋愛小説である。主人公で一人称の語り手である Frederick Henry は、イタリアで建築の勉強中に第一次大戦にぶつかり、将校としてイタリア軍の野戦衛生隊に入隊する。そこで彼はイギリス人の篤志看護婦 Catharine と出会い、二人の間に激しい恋愛が始まる。物語は彼女の妊娠、イタリア軍の敗走、Frederick の脱走、苦難を経た挙げ句の二人の再会、そしてボートを漕いでのスイスへの脱出、とドラマティックに展開する。しかし、スイスでの束の間の幸せの後、Catharine は難産で死に、赤ん坊も助からず、Henry はひとり異国に取り残され雨の中をホテルへと帰って行く。 名作と見られている作品には、名台詞や名場面、巧みな象徴の使い方などが満ちあれている。それらを十分に味わい、楽しみながら小説を「読む」力を身につけてもらいたい。	[講義計画] この小説は5部41章、300ページほどから成る。授業では、さわりの部分を精読して行く。この部分は期末の英語読解力試験の対象となる。残りの部分は各自が読み、指定期日までに指定された部分の梗概を提出する。(訳本の助けを借りても構わない。)どの章やパッセージを教室で読むのかは、授業の最初にタイムテーブルを配布して指示する。人物像その他についての質問課題(レポート課題)は6回目の授業時あたりで配布する。この質問課題に対する解答は、レポートの形、あるいは、期末試験時に筆答試験として回収する。速読を加えながらかなりのスピードで精読していくが、学生諸君の頑張りを期待している。			
[成績評価の方法] 平常点(教室での発表と出欠状況など)、筆記試験(期末の英語の読解力試験)、レポート(作品全体の感想文、各部・各章の要約、登場人物の性格分析、プロット展開の分析など)による。	[参考文献] 1) 佐伯彰一編 『ヘミングウェイ』(20世紀英米文学案内15) 研究社 1966 2) 大久保康雄 訳 『武器よさらば』 新潮文庫 1955 3) 井上謙治 著 『アメリカ小説入門』 研究社 1995			
[教科書] Ernest Hemingway, <i>A Farewell to Arms</i> . Scribner Paperback Fiction. (Simon & Schuster)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅱ（職業の選択）		秋学期	2単位	中 村 祥 子
〔講義概要・学習目標〕 近代社会以降は、原理的には、誰でも自由に就きたい職業を選ぶことができるようになった。しかし現実には自分がやりたい仕事は何であるかを見極めることはなかなか難しいし、その希望をかなえることもまた大変難しい。イギリス文学でも、こうした問題を扱った作品は、数多くある。この講義では特に、19世紀から20世紀にかけて書かれたイギリス小説において、作中人物たちが自分の職業選択の問題を、どのように解決しようとしているかを探ってみる。 19世紀以降のイギリス小説を幾つか取り上げ、それぞれの主人公たちがどういう職業を選び、そのためにどのような経験をするかを、具体的に見ていく。取り上げるものは、Brontë姉妹、George Eliot、Thomas Hardy、George Gissing、James Joyce らの描いた小説である。またこれらの小説を具体的に読むことを通して、広くイギリス小説の特質を明らかにし、併せて優れた文学作品を読むことの今日的意義を考えていく。	〔講義計画〕 それぞれの作品において、主人公が職業選択に関して経験する部分を中心に取り上げ、それを左記の講義概要に沿って論じる。特に重要な所は原文を精読する。			
〔成績評価の方法〕 期末試験の成績、平常の成績の総合評価による。平常の成績には出席状況のほかに指示した読了文献（プリントを含む）をどれだけ真面目に読んできたかも加味する。	〔参考文献〕 授業中に指示する。			
〔教科書〕 授業中にプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅱ（英国の現実）		春学期	2単位	中 村 祥 子
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、Charles Dickens の <u>A Christmas Carol</u> を取り上げて、作者が当時のイギリス社会をどの様に描いているかを見ていく。Dickens は、時代を越えたベスト・セラー作家であるが、それは、彼が同時代の社会問題を常に正面から取り上げているからである。そしてその社会問題というのが、貧富の差の拡大・失業者問題・貧困な社会福祉政策等々であり、今日私たちが生きている時代の問題が、まるで先取りされたかのような形で作品化されているからである。しかも、こうしたシリアスな内容の小説であるにもかかわらず、Dickens は、たとえばこの小説では、ファンタジーの要素をとり入れて、実に面白い、読者を真に楽しませる物語に仕上げていく。推理小説の元祖でもあったDickens が読者に仕掛けた様々な工夫に挑戦する魅力も大きいものである。 この小説を通して、イギリス社会がどの様に描かれているかを具体的に見ていき、さらにストーリーの展開の中に示されている作者の主張を正確に読み取っていく。そして優れた文学作品を読むことの意義を改めて考えていきたい。	〔講義計画〕 中編小説であるので、重要な部分を重点的に精読し、左記の講義概要に沿って論じる。			
〔成績評価の方法〕 期末試験の成績、平常の成績の総合評価による。平常の成績には、出席状況のほかに、指示した読了文献（テキスト、プリントなどを含む）をどれだけ真面目に読んできたかも加味する。	〔参考文献〕 授業中に指示する。			
〔教科書〕 Dickens, C. 著 <u>A Christmas Carol</u> （北星堂） 北川穂二編注				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者	
文学概論		通 期	4単位	和 栗 了	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文学とは何かという問題に1つの解答を出すために、個々の作品を丹念に読みながら、文学作品を読むことの面白さを講義したい。文学作品が1つの芸術として何かを伝えようとするものである以上、その伝達のために最良の方法を選択する。だとすれば、その最良の方法を読み解く技術が必要になる。このとき、作品をどのように読み解くべきかという問題が生ずる。 この授業では1つの読み方を提示する。受講生はその読み方を参考にしながら、独自の読み方を創り上げてほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期 第1回 入門「文学とは何か」 第2回 芥川龍之介「藪の中」 第3回 文学作品の形式と内容（1）：民族物語あるいは神話 第4回 旧約聖書「創世記」 第5回 文学作品の形式と内容（2）：詩 第6回 e. e. cummings, “somewhere i have never travelled, gladly beyond.” William Shakespeare, “Sonnet 18.” 第7回 文学作品の形式と内容（3）：劇 第8回 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』 第9回 文学作品の形式と内容（4）：小説 第10回 安部公房「デンドロカカリヤ」 第11回 文学作品の形式と内容（5）：批評 第12回 小林秀雄「様々な意匠」</p> <p>後期 第1回 テーマ1：中産階級の日常生活 第2回 カフカ『変身』 第3回 モラーヴィア『無関心な人々』 第4回 テーマ2：長編小説と短篇小説 第5回 ヴィクトル・ユゴー『死刑囚最後の日』 第6回 ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』 第7回 テーマ3：神、あるいは運命と人間 第8回 Oedipus 王の運命：ソフォクレス『オイディプス王』 第9回 マーク・トウェイン「百万ポンド紙幣」 第10回 テーマ4：漫画は文学か？</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期のレポートによります。出席も重視します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業で取り上げる作品を読んでおいてください。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ありません。</p>					

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（東南アジア文化）		春学期集中	4 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 この講義の目標は東南アジア地域研究のための基礎的な素養を身につけてもらうことである。同時に、東南アジアに限らず「地域」というものを捉える視点と「地域研究」というものについても話したい。 <地域研究>には「現地体験」とつまり現地社会に入って人々の暮らしと文化を観察することが必要である。教室では不可能だが、せめてビデオでこれを行ってみよう。ただしビデオは誰かが「編集したもの」であることに注意しなければならない。地域研究にはまた「地域特性」とつまりその地域の特徴とその背景の把握が大事だが、東南アジアではこれがけっこう難しい。多様性、生態適応型、地域統合志向の出現といったことから出発しよう。 なお広く東南アジア全域を対象とするが、細かい点では私の専門との関係で、地域的にはインドネシア、学問的には歴史学に傾きがちである。	【講義計画】 1. 世界のなかの東南アジア アジアとヨーロッパ/世界のなかの東南アジア 2. 東南アジアの多様性の現状と背景 地理/10国の現況/言語・民族/宗教/歴史 3. 東南アジアという地域の成立論理 国際政治の論理/文化的視点 4. 東南アジアを括る論理を求めて 生態学(島の熱帯)/社会学(小人口社会)/ 文化学(基層文化と外来文化)/政治学(権力の強さと弱さ)			
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験の成績を総合する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997 (桃園R292.3) 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいインドネシア』弘文堂 1995 (桃園ST292.4) 上智大学アジア文化研究所編『入門東南アジア研究』めこん 1992 (桃園A223) 土屋健治・加藤剛・深見純生編『インドネシアの事典』同朋舎 1991 (桃園R292.4) 小池誠『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』三修社 1998 (桃園302.237)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（イタリア文化） 現代イタリア成立史		秋学期集中	4 単位	米 山 喜 晟
【講義概要・学習目標】 現代イタリア人の文化は過去の基盤や遺産や体験の上に成り立っている。たとえば、 I. 古代ローマ文明という基盤。 I I. 中世半ばより後期にかけての経済的繁栄による中世ローマの莫大な遺産。 I I I. フィレンツェを中心にして生まれたルネサンス文化という遺産。 I V. スペインを中心とする絶対主義諸国に侵入され、征服されるという苦い体験。 V. スペインと交代したオーストリアによる啓蒙主義的改革の体験。 V I. フランス革命の影響とナポレオンの支配という体験。 V I I. イタリア統一の動きと、数々の方針。サルデーニャ王国による統一とその影響。 V I I I. 統一後の幻滅。産業革命と近代化の遅れの自覚。アメリカへの大量移民。 I X. つかの間の繁栄から第一次世界大戦までのセピア色のイタリア。 X. ファシズム支配下のイタリア。ドイツに引きずり込まれた第二次世界大戦の体験。 X I. 戦後イタリアの繁栄と混乱と再起と混沌。U. E. のメンバーとしての体験。 こうした遺産や体験を明らかにして、今日のイタリア文化の成立を説明して見たい。	【講義計画】 講義概要の各項目に1~2時間を当てたい。ただしソルジメントをあつかったV I I. には3時間を配分する。			
【成績評価の方法】 期末に試験をして最低30点に達している人のレポートのみを読む。試験の点とレポートの出来栄に、出席状況を加味して評価する。歴史関係の授業で、どこかで丸写しして来たようなレポートだけで合格しようとする横着者が後を絶たないが、知識がなければもの考えようもないことを忘れてはならない。まず試験で必ず合格点を取る。	【参考文献】 ジュリアーノ・プロカッチ著、齋藤、豊下訳、イタリア人民の歴史、未来社 藤澤道郎著、物語イタリアの歴史、中公新書、中央公論社 ピーター・パーク著、森田、柴野訳、イタリア・ルネサンスの文化と社会、筑摩書房 ロザリオ・ロメーオ著、柴野均訳、カヴールとその時代、白水社 藤澤房俊著、赤シャツの英雄ガリバルディ、洋泉社 藤澤道郎著、ファシズムの誕生、中央公論社			
【教科書】 プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学		通 期	4 単位	藤 森 勉
[講義概要・学習目標] 春学期には地理学史を、秋学期には経済地理学を講義する。 現在の人文地理学は地理学観や目的・方法などが長い歴史を通じて進歩してきたので、これを理解するには地理学の発達の歴史を概観するのが最も適しているからである。 また人文地理学は研究対象によってさまざまな分野で構成されており、それぞれに研究手法も確立されている。とくに現在大きな分野の一つとして考えられるのが経済地理学であり、日本のさまざまな経済地地域をとり上げ、外国の諸例も紹介しながらその特徴を講義する。	[講義計画] 地理学史：(1)古代中国を中心とした地理学観 (2)ギリシア・ローマ時代の地理学 (3)大航海時代の地理的視野の拡大 (4)近代地理学の形成(ドイツ・フランス) (5)現代地理学の課題 経済地理学：伝統産業分野 (1)漆器・陶器 (2)綿織物・絹織物 中小工業分野 (1)毛織物 (2)金属洋食器 大規模工業分野 (1)造船 (2)石油化学			
[成績評価の方法] 期末テストの成績を90%、出席率を10%とする	[参考文献] 授業時に適宜紹介する。			
[教科書] 使用しない。授業時にプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア思想史		秋学期集中	4 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標] 四千年にも及ぶ中国思想史を一年間二十数回の講義では到底延べ尽くすことはできない。本年度は春秋時代から秦の天下統一まで、主に諸子百家の思想を明らかにし、それぞれの代表的な思想家について述べたい。	[講義計画] 1. 中国思想史の意義ならびにその分期について 2. 諸子百家の時代 3. 孔子 4. 孟子 5. 荀子 6. 墨子 7. 老子 8. 莊子 9. 韓非子			
[成績評価の方法] 前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。	[参考文献] 狩野直喜 『中国哲学史』 岩波書店 武内義雄 『中国思想史』 岩波書店 小島祐馬 『中国思想史』 創文社 森三樹三郎 『中国思想史』 第三文明社			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
〔講義概要・学習目標〕 <p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</p>	〔講義計画〕 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中に学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。 			
〔成績評価の方法〕 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出席を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。) 	〔参考文献〕 『教え方の基本』(丸山敬介、京都日本語学校) 『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研) 『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社) 『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク) 『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社) 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社) 『日本語の地平線』(吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版)			
〔教科書〕 『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』(高見澤孟)(アスク、1996)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅰ		通 期	4 単位	吉 岡 美 穂
〔講義概要・学習目標〕 <p>日本人のコミュニケーション・スタイルにはどんな特徴があるのか？ 日本人の謝り方、ほめ方、批判の仕方、自己開示の仕方、あいづちの仕方、時間・空間の使い方などは外国人にはどう理解されているのか？ この授業では、異文化間の相互作用によって起こる問題についてディスカッションを行い、他者の意見を尊重し、異なった視点から物事を見る能力を養う。</p>	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションとは何か？ 2) 言語コミュニケーション 3) 非言語コミュニケーション 4) 価値志向 5) 「文化」とは何か？ 6) カルチャーショック 7) 異文化適応 			
〔成績評価の方法〕 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加と出席・宿題・テスト・レポートを総合的に評価する。 	〔参考文献〕 <ul style="list-style-type: none"> ・「日本人の表現構造」D.C.バーンランド著(サイマル出版) ・「異文化コミュニケーション・ハンドブック」(有斐閣選書) 			
〔教科書〕 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用せず、必要な時は資料を配布する。 				

